



地域おこし協力隊通信

鈴木保博編 第79回



第2回のしろいちではサンタにふんし市民を喜ばせた



雪かきは完全防備で

昨年2月に埼玉県の熊谷市から引越し、翌3月から地域おこし協力隊として活動している鈴木です。前職はインターネット関連会社の通販部門で営業技術を担当し、また全国の大学、自治体、刑務所などでネット通販セミナーを開催し、地元の特産品販売による活性化も兼務していました。協力隊としての活動を3つにまとめてお伝えします。

まず1つ目が、能代の名産品をネット通販で全国に販売することです。商工会議所や能代科学技術高校などの各団体様向けにセミナーを開催し、高校生が栽培・収穫したあきたこまちから、秋田杉から切り出した一枚板に至るまでの能代の名産品を、新規開店した17店舗で全国に販売しており、おかげさまで毎月の売上は順調に伸びています。

2つ目は、商店街にある空き店舗の活用を進めることです。シャッターが閉められた空き店舗を調査し、オーナー様のご協力をいただきシャッターを開け、明かりがともることにすれば、街全体が明るくなります。昨年開催した「のしろいち」では空き店舗を活用したワークショップがにぎわっていました。

3つ目は、中心市街地で開催されるイベントのお手伝いです。昨年は「のしろいち」能代公園おもしろアート祭り」などのお手伝いをしました。能代の風と雪には驚きでしたが、強風でも吹雪でも毎朝1時間半のランニングで鍛えています。気さくで親切な能代の皆さんと、これからも一緒に楽しく元気に活動したいと思っています。

問合せ 中心市街地活性化室 ☎89-1414

このコーナーでは、まちの元気さんを紹介します。



No.108

米屋志保子さん(44歳)

志保子だいいこう

家事の手伝いや話し相手を希望する方は気軽に相談してください



経験を生かして家事代行の仕事に打ち込む

志保子だいいこう ☎090-6621-1650

その一人が地

●家事と傾聴の依頼を受ける  
昨年9月に家事代行業の会社「志保子だいいこう」を立ち上げました。炊事や洗濯、買い物、断捨離の手伝いなどを行う「家事だいいこう」と、悩みなどを友達のような立場で聴く「友達だいいこう」の2本柱で仕事を受けています。

●障がい分かり気持ちよく  
高校卒業後、仙台市の美容学校に進学し美容師として働き始めました。大好きな仕事でしたが極度の手荒れのため美容師の道は断念。その後は、荷物の配達員や居酒屋店員な

ど職を転々としてきました。一つの仕事がなかなか続けられず40種類近く経験しました。双極性障がいと診断されたのは33歳の時です。そう状態とうつ状態を繰り返す精神疾患です。同じ仕事を続けられないことに悩んでいた中で、それが障がいによるものだと分かり気持ちが軽くなりました。

●ネットからも家事代行依頼  
最近まで市内の会社で清掃員として働いていました。自分に合っていたようで6年近く続けられました。この仕事を始めてから家事代行業の夢を思い描くようになりまし

●得意を生かして  
コロナ禍でうち時間が増え、家事の負担は増していると思います。大変なときは気軽に相談してほしいです。また、障がいがある人にはこんなチャレンジがいることを知ってもらいたい。私は一つのことを打ち込むのは得意その部分を生かそうと始めたのが家事代行の仕事でした。障がいはデリケートな部分だけれど、元気に頑張っていることを伝えたいです。

